

本年度も皆様の御理解と御協力のおかげで、全ての教職員研修を無事実施することができました。ありがとうございました。

教職員研修をさらによりよいものとするを目的に、教職員研修アンケートを実施しました。「鳥取市教職員研修ガイド」に掲載している研修目標1～5に関する項目に関する設問の回答結果から特徴的な項目についてまとめました。

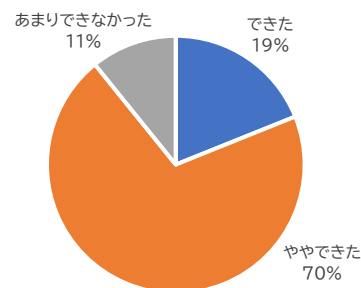
今後も、アンケートで皆様からいただいた貴重な御意見をもとに、教師力アップ・学校力アップをめざした教職員研修を実施していきます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

## 1 各カテゴリのアンケート結果より

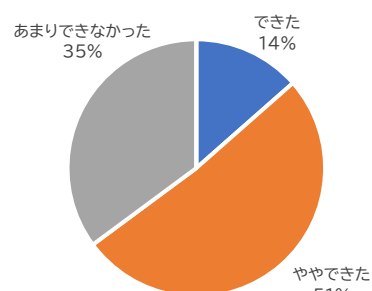
### 【初任者・新規採用養護教諭】

- 目標1において、1-①児童生徒の関係づくりに向けた指導や支援について「できた」と回答した割合は18.9%にとどまる一方、「ややできた」を含めた肯定的回答は89.2%に達している。この差は、「一定程度取り組んでいる」という認識はあるものの、自身の実践を十分な成果として評価するには至っていない初任者の自己評価の特徴を示していると考えられる。すなわち、取組の有無よりも、**成果の質や完成度を重視する傾向が強く表れている。**
- また、目標2および目標3において、肯定的回答が他のキャリアステージと比較して低い結果となっている点は、初任者研修において学力向上や授業改善に関する理論的・モデル的な学習内容の研修が多いことと関連していると考えられる。**理想的な授業像を多く学ぶことで、現時点での自身の実践との差を強く意識し、その結果として自己評価が厳しくなる構造が、数値の低さに反映されていると推察される。**
- 一方、目標4の4-⑦教育的ニーズの把握については、肯定的回答が88.5%と高い水準にある。しかし、他のキャリアステージと比較すると低い結果であることから、初任者は「**対応している実感**」はも

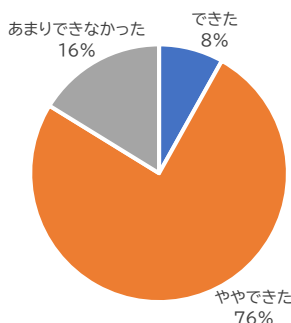
1-①児童生徒の互いを思いやり支え合う関係づくりに向けた指導や支援



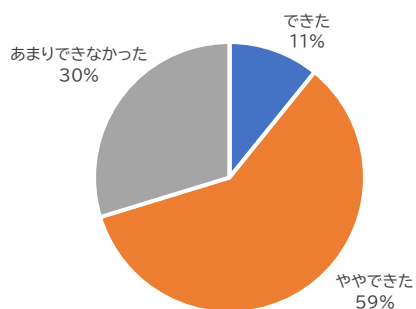
2-④次時の見通しをもたせるための、学習のねらいに対する振り返り



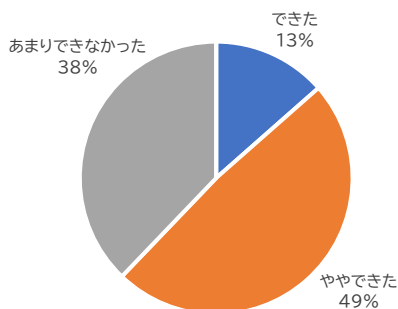
2-③魅力ある問題提示



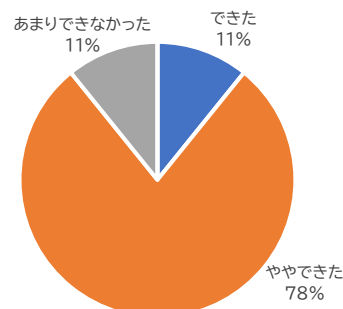
3-⑤タブレット端末を習慣的に活用できるような環境づくり



3-⑥活用できるアプリの見通し



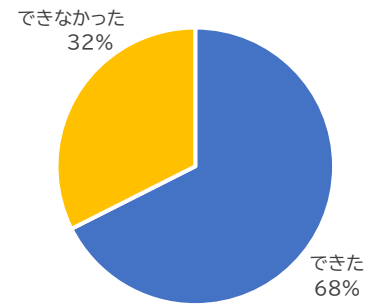
4-⑦一人ひとりの教育的ニーズの把握



ちつつも、「専門的視点をもって十分に把握できている」とまでは捉えていないことがうかがえる。このことは、校内でのメンター指導や研修によって経験を積み始めている段階であることと整合性がある。

- ・さらに、目標5のMyアイデアの活用について、3割以上が「できなかった」と回答している点は、研修内容を自身の実践に結び付ける段階に至る前に、日々の業務への対応で精一杯になっている初任者の実態を示していると考えられる。これらの数値を総合すると、初任者層においては「理解・意識化」と「実践・活用」の間にギャップが存在していることが明確になった。

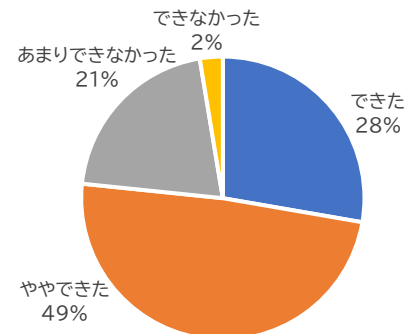
5-⑨-1Myアイデアの活用



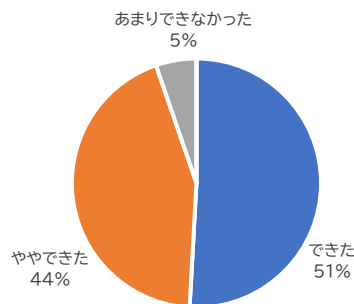
## 【主幹教諭・教諭・養護教諭・定数内講師・養護助教諭】

- ・目標3において、日常的なICT活用の環境づくりについて約4分の1が否定的回答を示している。この割合は、個人差の問題として捉えるには無視できない規模であり、学校間あるいは校内体制の差が数値として顕在化していると考えられる。また、本カテゴリーはアンケート対象者の母数が最も多く、鳥取市全体の教職員の実態を反映していると考えられることから、「4分の1が否定的」という結果は、市全体としてICT活用が十分に定着していない学校や教員が一定数存在していることを示している。これは、ICT環境が整備されていても、日常的に活用する段階まで到達していない実態があることを意味している。このことから、今後の課題は、全体一律の研修ではなく、否定的回答を示した約4分の1の層を明確に意識した支援策と考える。具体的には、「使う意義を理解する段階」から「授業で使える段階」への移行を意図した研修設計が求められる。

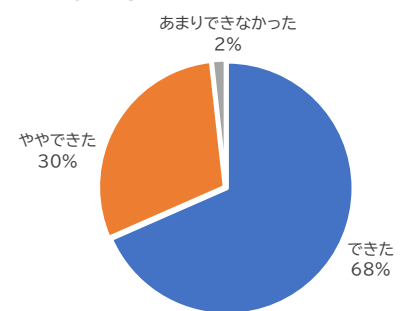
3-⑤タブレット端末を習慣的に活用できるような環境づくり



1-①児童生徒の互いを思いやり支え合う関係づくりに向けた指導や支援



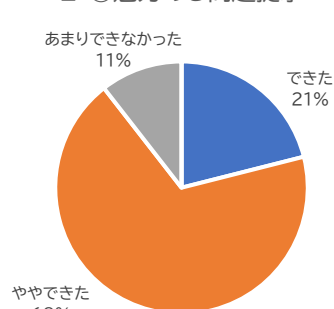
1-②学校生活アンケートや「今日の自分予報」等を活用した相活動・早期対応



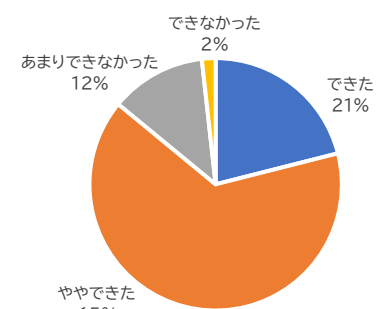
## 【学校長】

- ・学校長の回答では、目標1・2において肯定的回答が9割前後と高い一方、「できた」とする回答（右の円グラフ青の部分）は約4分の1から半数程度にとどまっている。この数値の乖離は、学校長が学校全体を評価する立場として、一部の実践ではなく、組織としての再現性や持続性を重視して判断していることを示している。
- ・特に目標3において、習慣的なICT活用の環境づくりが約

2-③魅力ある問題提示



2-④次時の見通しをもたせるための、学習のねらいに対する振り返り



4割、アプリ活用の見通しが3割弱にとどまっている点は、「学校長が『一部の教員が活用している段階』から『学校全体で定着している段階への移行が十分でない』と認識していることを数値が裏付けている。鳥取市GIGAスクール構想開始から5年が経過しているにもかかわらずこの水準にとどまっていることから、ハード整備後の「活用の質の向上」が今後の重点課題である。

- 特に目標3において、習慣的なICT活用の環境づくりが約4割、アプリ活用の見通しが3割弱にとどまっている点は、学校長が「一部の教員が活用している段階」から「学校全体で定着している段階」への移行が十分でないことを数値が裏付けている。鳥取市GIGAスクール構想開始から5年が経過しているにもかかわらずこの水準にとどまっていることから、ハード整備後の「活用の質の向上」が今後の重点課題であることが明確になった。

## 【副校長】

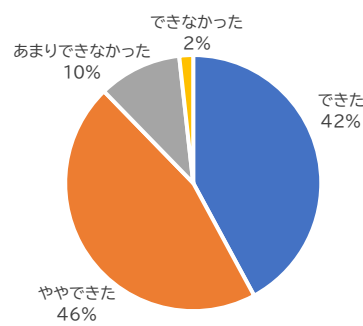
- 副校長において、目標5のMyアイデアの活用が100%「できた」となっている点は、他の職層と比較して極めて特徴的である。この結果は、副校長が危機管理や学校運営の実務を担う立場として、研修内容を具体的行動に即座に落とし込む役割を果たしていることを示している。
- また、共有した相手として「管理職」が100%であることから、研修内容が個人の理解にとどまらず、管理職間での共通理解・即時的な意思決定につながっていることが分かる。このように、数値が100%に集中している項目は、研修の内容と職務内容が強く結び付いている場合、成果が行動として表れやすいことを示す好例である。

## 【教頭】

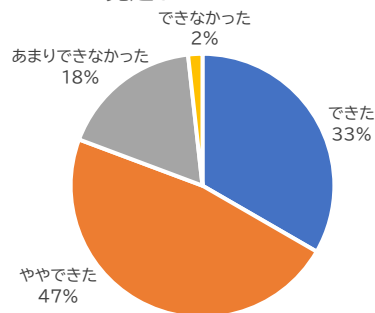
- 教頭の回答では、目標2および目標4において、学校長よりも「できた」とする割合が1～2割程度高い。この差は、評価基準の違いだけでなく、教頭が日常的に授業や児童生徒の様子を把握し、現状に満足せず、スキルアップに向けた改善の過程を具体的に捉えていることに起因していると考えられる。

すなわち、学校長が「学校としての完成度」を評価軸としているのに対し、教頭は「実践の積み上げ」や「改善の兆し」を肯定的に評価していることが、数値の差として表れていると捉えることができる。この結果は、管理職内で評価視点を共有することの重要性を示唆している。

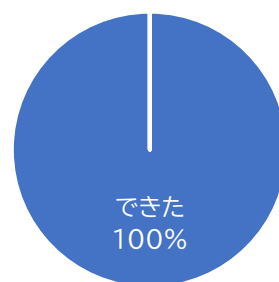
3-⑤タブレット端末を習慣的に活用できるような環境づくり



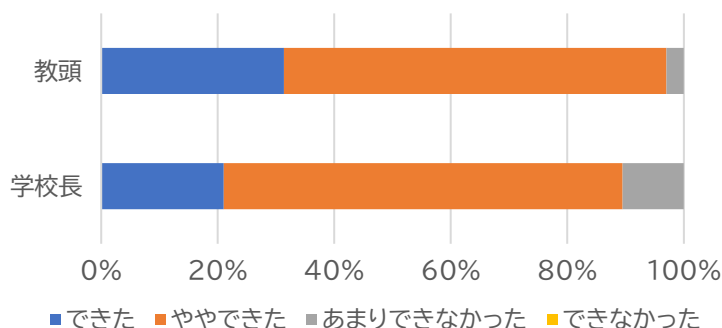
3-⑥活用できるアプリの見通し



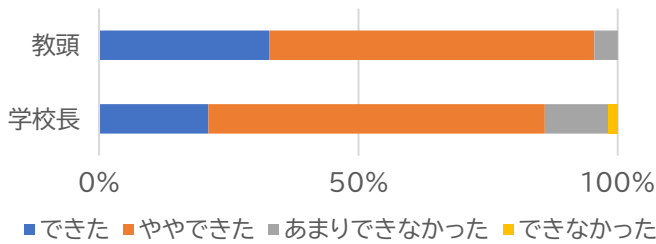
5-⑨-1Myアイデアの活用



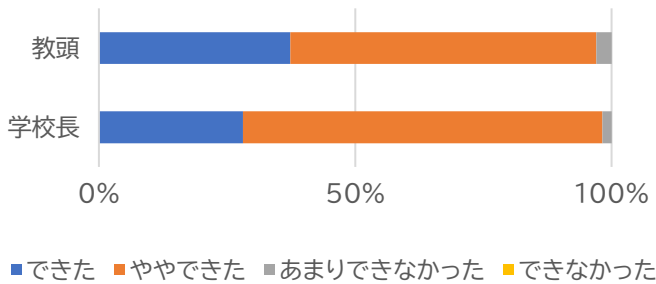
2-③魅力ある問題提示



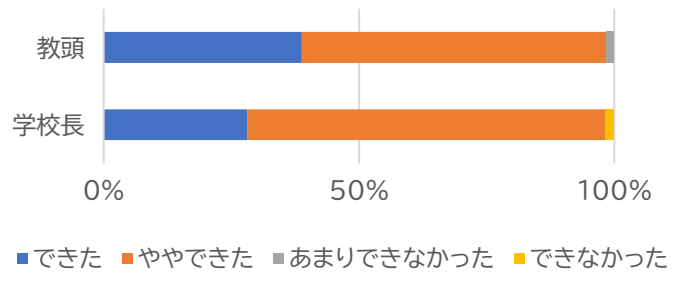
2-④次時の見通しを持たせるための、  
学習のねらいに対する振り返り



4-⑦一人ひとりの教育的ニーズの把握



4-⑧一人ひとりにあった支援や学習環境づくり

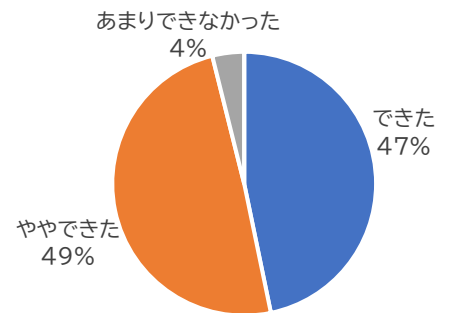


## 【中堅教諭・6年目】

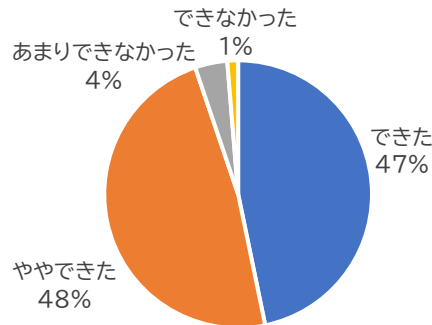
・中堅教諭・6年目では、目標1において「できた」とする回答が約5割、目標5「Myアイデアの活用」では約9割に達しており、他のキャリアステージと比較して高い水準にある。この数値は、一定の**実践経験を積み、研修で得た知見を自らの実践に位置付けて評価できる段階に到達している**ことを示している。一方、目標3においては、アプリ活用の見通しを持っていない受講者が約4分の1存在している。これは、ICT活用が個人の経験や試行回数に大きく依存しており、**経験年数の増加のみでは克服されない課題**であることを示す数値である。

・分掌部会やプロジェクトチームへの提案が半数にとどまっている点は、ミドルリーダーとしての役割が「実践段階」から「組織提案段階」へ移行する過程にあることを示している。今後、このカテゴリーを対象に、**提案力・合意形成力を高める研修を行うことが、学校全体の改善につながる**と考える。

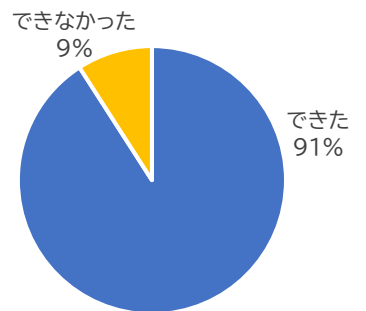
1-①児童生徒の互いを思いやり支え合う関係づくりに向けた指導や支援



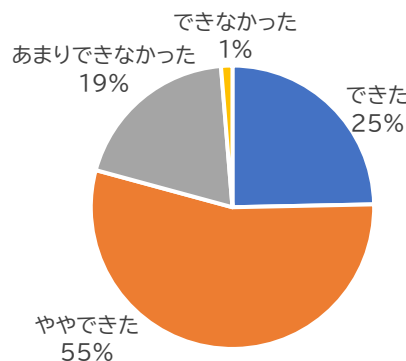
1-②学校生活アンケートや「今日の自分予報」等を活用した相談活動・早期対応



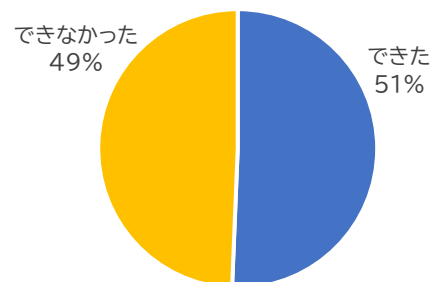
5-⑨-1Myアイデアの活用



3-⑥活用できるアプリの見通し



5-⑩-1分掌部会、プロジェクトチーム等への提案



## 2 まとめ

### ① 初任者層の自己評価の特徴

#### 【数値】

- ・目標 1: 肯定的回答 89.2%
- ・目標 4: 肯定的回答 88.5% (他層より低水準)

#### 【考察】

- ・取組は行っているが、成果として評価できていない。
- ・理想像との比較により、自己評価が厳しくなっている。

#### 【課題】

- ➡ 成果を可視化・言語化する視点が不足している。
- ➡ キャリアスタート期で自己効力感が育ちににくい段階。

### ② 研修の「理解」と「実践活用」の段階差

#### 【数値】

- ・初任者: My アイデア活用「できなかった」3割以上
- ・中堅教諭: 同項目「生かした」約9割

#### 【考察】

- ・経験年数により、学びを実践に翻訳する力に差がある。
- ・初任者は日常業務対応で試行の余裕が少ない。

#### 【課題】

- ➡ キャリアによって研修内容が実践につながる前段階で止まっている。

### ③ ICT 活用における定着の壁

#### 【数値】

- ・主幹教諭等: ICT 活用環境に否定的 約4分の1
- ・学校長: 習慣的活用 約4割  
アプリ活用見通し 3割弱

#### 【考察】

- ・環境整備は進むが、日常的活用は一部に限定されている。
- ・個人の力量や関心に依存している。

#### 【課題】

- ➡ ICT活用が学校共通実践としてまだ定着していない。

### ④ 中堅教諭の成長段階

#### 【数値】

- ・My アイデア活用 約9割
- ・組織(分掌・PT)への提案 5割

#### 【考察】

- ・個人実践力は高い。
- ・組織改善への関与は発展途上である。

#### 【課題】

- ➡ 実践者からミドルリーダーへの移行段階。

## アンケート結果から見える現状と課題

#### 初任者層の自己評価の特徴

- ・取組は行っているが、成果として評価できていない
- ・理想像との比較により、自己評価が厳しくなっている

#### 研修の「理解」と「実践活用」の段階差

- ・経験年数により、学びを実践に翻訳する力に差がある
- ・初任者は日常業務対応で試行の余裕が少ない

#### ICT活用における定着の壁

- ・環境整備は進むが、日常的活用は一部に限定
- ・個人の力量や関心に依存している

#### 中堅教諭6年目教諭の成長段階

- ・個人実践力は高い
- ・組織改善への関与は発展途上